

マコモの有望系統と特性							
[要約]							
12系統のマコモについて特性を調査し収穫時期の早晩、収量性、品質（黒穂菌胞子形成度）について明らかにし、早生、中生、晩生系として有望と思われる系統を選定した。							
三重県農業技術センター・栽培部・作物栽培担当				連絡先	05984-2-6359		
部会名	水田・畑作物	専門	栽培	対象	マコモ	分類	普及

[背景・ねらい]

麦・大豆作が不適な排水不良田の有効利用を図るため、水生作物としてジザニア属マコモを取り上げ、その特性を調査し多収で良品系統を選抜する。

[成果の内容・特徴]

- ① 草丈はF P系が最も高く、次いで白皮、大浦系が高く、台湾系は30cm程度低い。茎数は大里、長沙、大浦系が多く、台湾、白首、青首・短系は10本程度少ない。
(表1)
- ② 収穫始めは長沙、赤茎、青殻系が早く青首・短、青首・長、白首系は10日程度遅い。
(表1、2)
- ③ 総収量は長沙系が最も多く、次いで白皮、F P、大里系が多く青首・短系が最も少ない。
(表1)
- ④ 上物収量はF P系が最も多く、次いで白皮、大里系が多く青首・短系が最も少ない。
(表1)
- ⑤ 上物の1本当たり重量は白皮系が最も重く、次いで青首・短、白首系が重く台湾系が最も軽い。また収穫後期になるほど軽くなる。(表1、3)
- ⑥ 黒穂菌胞子は長沙系では収穫始めから終わりまでみられ最も多く、他の系統では10月中旬までは殆どみられず、特にF P、白皮、赤茎系は後期も少なく上物割合が高い。また台湾系は全収穫期間みられない。(表1、2)
- ⑦ 以上の結果より早生系として赤茎、青殻系、中生系として白皮、F P系、晩生系として青首・短系が有望と思われる。

[成果の活用面・留意点]

- ① 麦・大豆作が不適な排水不良田の転作物として有望である。
- ② 本年度の優良株を次年度の親株に利用する。
- ③ 用水の供給が可能な圃場を選ぶこと。
- ④ 長期間収穫できる様に早晩系を組み合わせ栽培するといふ。

[具体的データ]

表1 生育収量特性

早晩性	系統名	収穫期間	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	初期伸張性	肥大の着生位置	肥大の早晩	胞子形成	胞子形成度	穂度	総収量			上物収量			
											本数/株	重量/株	重量/本	本数/株	重量/株	重量/本	
早	長	沙	10/7~11/18	200	27.9	やや弱	中	80	早	43	4.1	22.2	1,252	56	8.6	541	63
生	赤	茎	10/7~11/18	206	21.1	中	やや高	71	中	12	6.0	14.8	458	56	12.2	760	62
系	青	殻	10/7~11/18	208	22.4	中	高	62	晩	15	5.8	14.5	453	59	11.5	761	66
大	里		10/14~11/18	210	28.2	やや弱	高	54	中	18	6.1	15.2	939	62	11.2	799	71
中	台	湾	10/14~11/18	191	18.8	やや弱	中	56	無	0	4.6	10.5	488	46	10.2	483	47
生	大	浦	10/16~11/18	214	27.6	中	高	53	中	26	6.2	14.5	847	58	8.8	627	71
系	日	吉	10/16~11/18	210	26.4	中	やや高	56	中	20	6.3	14.7	785	53	9.8	626	64
F	P		10/16~11/18	220	24.6	中	中	58	晩	5	5.5	14.3	453	67	13.5	827	68
白	皮		10/16~11/18	216	25.4	中	高	46	晩	11	6.0	12.1	457	70	10.2	886	87
晩	白	首	10/16~11/18	204	18.7	やや弱	低	40	晩	21	6.4	7.4	471	64	4.6	338	73
生	青	首・長	10/19~11/18	209	24.0	中	低	25	晩	14	6.6	6.0	360	60	4.6	294	64
系	青	首・短	10/22~11/18	205	18.1	弱	中	41	晩	16	5.9	7.8	522	60	6.3	468	74

(注) 平成3、4年度の平均値

穂度：収穫始めから5穂までの平均値（アタゴ社PR-1デジタル穂度計）

表2 収穫時期別本数割合(%)

早晩性	系統名	10月				11月					
		上		中		下		上		中	
		上物	下物	上物	下物	上物	下物	上物	下物	上物	下物
早	長	3	1	15	10	16	33	4	9	2	8
生	赤	25	24	5	19	1	12	1	1	1	12
系	青	30	25	45	3	7	4	0	6		
大	里	17	1	50	2	7	13		11		
中	台	8		31	1	28	1	28	3		
生	大	10		40	7	12	11	1	19		
系	日	9		46	6	13	12	1	14		
F	P	3		50	31	5	11	2			
白	皮	5		57	1	19	5	9			
晩	白	1		32	1	23	14	10	18		
生	青	1		6	1	35	9	36	11		
系	青	35		1	30	5	17	12			

(注) 平成3、4年度の平均値

上物：可食部重量21g以上、黒穂菌胞子形成程度が無～低

下物：可食部重量20g以下、黒穂菌胞子形成程度が少～高

表3 重量別本数割合(%)

早晩性	系統名	上物				下物
		121g以上	120~81	80~51	50~21	
早	長	2	10	11	17	60
生	赤	2	16	26	28	38
系	青	4	21	22	22	30
大	里	4	24	35	11	26
中	台	1	9	28	58	4
生	大	3	21	25	14	37
系	日	2	16	30	20	32
F	P	1	25	36	25	5
白	皮	11	35	29	5	14
晩	白	6	17	30	13	34
生	青	2	19	34	23	2
系	青	5	27	34	15	18

[その他]

研究課題名：排水不良田におけるホールクローブ用水稲・麦類及び食用マコモの栽培・流通技術の開発

ウ。新特産水生作物の導入による地域輪作農業の安定化

予算区分：地域水田農業

研究期間：平成4年度（平成3～5年）

研究担当者：本庄 達之助、北野 順一

発表論文等：なし